

障がい者・家族の
声を聞くべき



柿生
学園の

指定管理者変更について

柿生学園は、強度行動障がいを抱えた方をはじめ、自宅では生活が困難な方など、60 名の方が生活しています。

その施設の指定管理者を、長年運営してきた「川崎市社会福祉事業団」から「社会福祉法人ハートフル記念会」に変更する議案が6月議会に出されました。利用者のご家族からは、「環境変化により、自傷・他傷行為が引き起こされるかもしれない。命にかかわる問題です」など、不安や戸惑いの声が上がり、陳情も出されました。重度の障害を抱える入居者のケアには、専門性と時間をかけた人間関係の構築が必要です。

「障害者総合支援法」では、「どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保される」ことを含め、支援を行わねばならないとし、サービス事業者に対し、「障がい者等の意思決定に配慮するよう努める」とも明記されています。環境の大きな変更に対して障がい者本人、あるいは家族の意思を尋ねていないこと、入所者一人ひとりとの継続し安定した信頼関係を築くための、最も大切な障害者施設の職員体制を明確にしていないことなどから、共産党市議団はこの議案には反対しましたが、賛成多数で可決されました。

100人以上の子どもが
すし詰め



大規模
な

わくわくプラザ

新年度が始まってから、わくわくプラザに関する苦情が保護者から相次いで届きました。「すし詰め状態で、お昼の時は他の子のお弁当をまたいで移動するほど環境が劣悪」「新1年生がいきなり 150 人もの子どもがいる場所で、3日連続でお弁当を口にできないほどのストレスだった」といった深刻な内容でした。

市議団では、大規模化している市内数カ所のわくわくプラザを視察しました。狭い部屋に100 人を超える子どもが詰め込まれ、職員はマイクを使って大声で指示を出しており、入退室管理システムが導入されていても、常に出入りする子どものフォローに手がとられている様子でした。根本的に改善するためには、放課後児童健全育成事業（学童保育等）と放課後子ども教室（全児童を対称とした子どもの居場所）とを現場で完全に分けて実施すること、その上で放課後児童健全育成事業として預かる子どもは学校のクラスのように40人ごとに分けて、地域での整備もふくめて各グループに専用の部屋を設け、専任の支援員を2人以上配置することが必要と求めました。



（川崎区）
後藤まさみ

- JFE スチール(株) 高炉休止後の雇用と地域経済への影響と支援について
- 本庁舎内の点字ブロックの設置について
- (仮称) 大師コミュニティセンターについて
- 多摩川六郷鉄橋下堤防強化に向けた
- 堀川町と六郷ポンプ場の排水樋管に関する対策について
- 市営住宅駐車場使用料減免申請提出書類改善について



（幸区）
渡辺 学

- 国民健康保険料について
- 訪問介護事業所への直接支援について
- 無料低額診療事業について
- 高齢者の屋内における熱中症対策について
- JR 多摩川橋梁部周辺の堤防強化について



（中原区）
市古次郎

- 学校のワックスがけ対応における学校間の差異について
- 第8期川崎市子どもの権利委員会による答申について
- 中原区役所の転入手続等に関する待ち時間について
- 等々力緑地のイベントについて
- 平間公園の水はけ、平和公園の噴水について

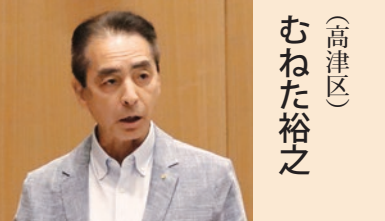


（高津区）
小堀しようにこ

- 二ヶ領用水側道のしだれ桜の植え替えについて
- 乳児等通園支援事業（こども誰でも通園制度）について
- 川崎市総合計画改定に向けた将来人口推計について
- 女性管理職比率と職員の研修について

6 一般質問
月議会

市民要望の実現を求め全員が質問しました



（高津区）
むねた 裕之

- 平瀬川護岸工事について
- 臨海部の脱炭素について（扇島の天然ガス発電所、液化水素サプライ）
- 千年商業施設新築工事について



（宮前区）
石川けんじ

- コミュニティ交通「つばめ号」の取組について
- 宮前平保育園の閉園に伴う認可保育所の整備について
- 「水道事業及び下水道事業の料金制度等のあり方（中間報告）」について
- 自主学童保育への支援について



（多摩区）
井口まみ

- 市営住宅について（申込区分、多言語表記）
- 稲田堤駅周辺の安全対策、南武線のワンマン化について
- 多摩区における保育園不足について
- 竹枯れについて
- 特別市について



（麻生区）
斉藤のどか

- 生活保護について
- ホームレスの支援について
- 日中一時支援事業について
- 新百合ヶ丘駅周辺のまちづくりについて